

皆様の声をお聞かせ下さい。ご意見はFAXにて。

ホームページを開設しました。アドレスは <http://www.yasuoka.org/> です。



鶏卵の危機打開

～平成 20 年度鶏卵価格安定基金の補てん基準価格大幅引き上げ決定～

3 月 18 日、自民党畜産・酪農対策小委員会において、平成20年度鶏卵補てん基準価格を決定しました。基準価格を前年対比19円/kg増の185円/kgに引き上げます。また、年度途中でも必要な場合は更に増額することもあるということにしました。

一昨年から、バイオエネルギー需要の増大や中国等での食料需要の急増等により、国内配合飼料価格が高騰が続いています。養鶏生産者は、徹底したコスト削減等に懸命に取り組んでいますが飼料価格の異常な高騰は生産者の努力の限界を超え、まさに存続の危機に立たされています。今回の決定は、こうした生産者の極めて厳しい状況に配慮した基準価格の大幅な引き上げを実現するものです。

農林水産省のまとめた平成 18 年の都道府県別の養鶏産出額(食鶏及び鶏卵の合計)によると、鹿児島は761 億円(全国の 10.2%)の全国 1 位です。また、わが国鶏卵は、国内自給率 9 割を超える水準を維持し、和食に合う栄養価の高い身近な食品として親しまれています。鹿児島の養鶏生産者は、鹿児島経済を支えるだけでなく、日本の食卓を支える重要な産業です。わたしは、こうした鹿児島の養鶏生産者が、今、大変苦しい状況に追い込まれていることをしっかりと認識した上で、これからは鹿児島の養鶏業界が元気になるようにがんばってまいります。

死因究明制度創設に向けて動く

～第 3 次試案の骨格について調整まとまる～

3 月 14 日(金)午前 1:10、わたしは、日本医師会常任理事・日本産婦人科医会副会長 木下勝之先生から、一通のメールをいただきました。メールは、厚生労働省が「死因究明制度(※)」(第 3 次試案)を策定するにあたり、この制度を、医療事故の専門的な特性を考慮し、医師が医療リスクに萎縮することなく全力で医療に臨むことができるように配慮した制度とするために、わたしの力を貸して欲しいといった趣旨のものでした。(※医療事故による死亡の原因究明・再発防止のための新たな仕組み)

3 月 14 日(金)早朝、わたしは、直ちに厚生労働省及び法務省の関係者を集めて、『新制度では、医師法21条に基づいて警察が自動的に動き出す現行の仕組みから、臨床医を中心として構成される医療安全調査委員会(仮称)が故意や重大な過失のある事例その他悪質な事例であると判断し、通知した場合にはその判断を尊重して警察が動き出す制度とし、判断を医療の専門家に任せる制度にするべきで、急いでこの趣旨にそった死因究明制度案(第3次試案)を策定する必要がある。』と指示しました。福田総理からも、舛添厚労大臣にこの問題について月内に結論を出すべくスピードアップして作業を進めて欲しいと指示していただいたようです。

こうした内容を明文化することについては、法務省及び警察庁には抵抗感があるようでした。しかし、わたしは、米盛学鹿児島県医師会会長、唐澤祥人日本医師会会長、竹嶋康弘同副会長等と相談しながら、関係省庁と根気良く話をさせていただきました。そして、3 月 19 日(水)、厚生労働省、法務省、警察庁の関係者を一堂に集め「今回の制度は、医療安全調査委員会からの通知を踏まえ、捜査機関が対応するという、委員会の専門的な調査を尊重する仕組みを構築する」ことで、一致することができました。

この制度が実現すれば、不明瞭な医療リスクを抱える産科・小児科の医師不足問題の解消にもつながります。わたしは、皆さまの声に耳を傾け問題解決に向けて直ちに動きます